



暮らしの幸せの作り方

～生活の構造的把握と生活支援～



全日本手をつなぐ育成会
「障害認識プロジェクト」@2009
より一部引用

明星大学 人文学部 吉川かおり

1. はじめに

(1) 自己紹介

障害児教育学(知的障害) → 社会福祉学(生活再建)
→ 障害学(生活支援、家族支援)

(2) 今日伝えたいこと

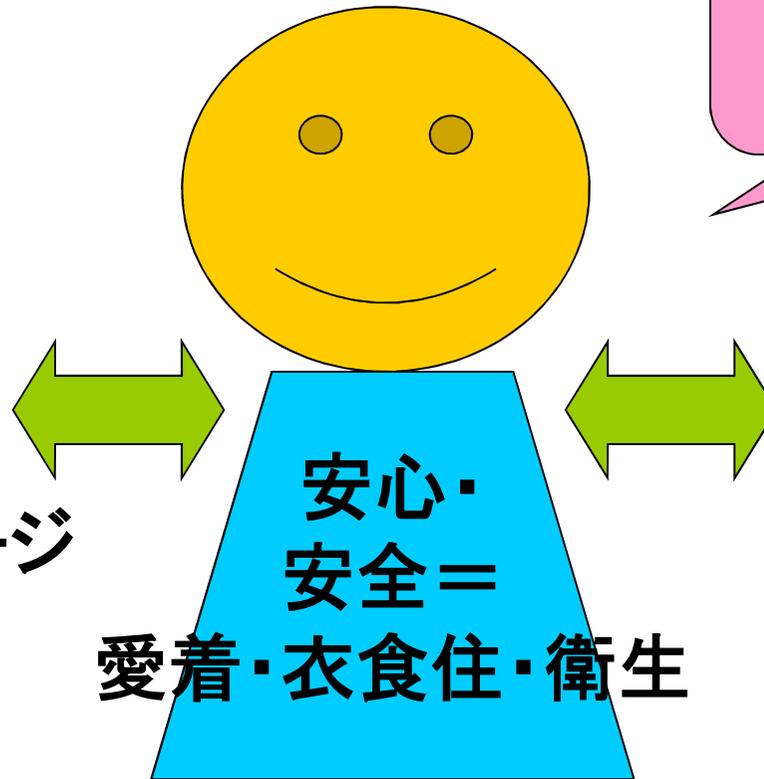
- ① **生活問題だけ**を支えても、人の暮らしは支えられない
⇒ **生活課題も含めて**支えることが重要
- ② **生活課題**を見るとき**の視点**: **生活の構造的把握**
- ③ **関連要因**: **人間観、援助観。障害観、障害者観。**





2. 生活の構造的把握

自尊感情
ありのまま
対処技術
生活のイメージ



その人らしい
生活
人生

生活体験
(探る・感じる・
作る・学ぶ・
遊ぶ・考える)

自分の使い方を知る





「その人らしい暮らし」を生み出す3側面

- **形で見えること: 生活に必要なもの**
金銭・住居・衛生・食事・身づくろい・余暇、学習 etc...
- **形で見えにくいこと: 人生に必要なもの**
ライフステージごとに取り組むべき課題
選び方・決め方・責任の取り方
- **形に見えないこと: 気持ち・アイデンティティ**
自尊感情・自己認識・心理的安定など



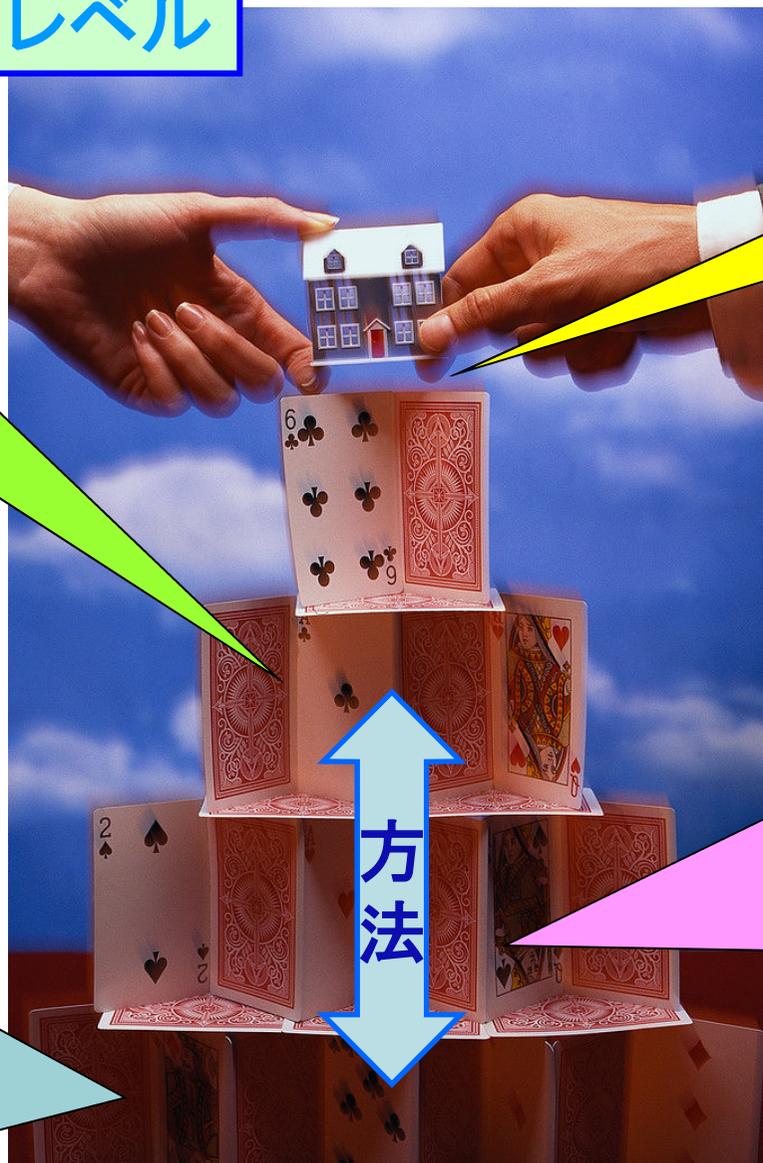
暮らしの3つのレベル

形に見えないこと
(内面に培うもの)

自尊感情、自己認識、
心理的安定、生活や
人生の見通し

形で見えること
(生活支援)

金銭・財産、住居、
食事、保健・衛生、
身繕い、余暇・学習、
交流(人間関係)、異
性交際・結婚、その
他(当事者活動、信
仰、帰省、モラル・マ
ナー、多領域の事
務)、就労



その人らしい
暮らし

形に見えにくいこと
(人生支援)

愛着形成、自己理解、
生活スキル、就労ス
キル、自己決定力、
親離れ、援助の使用、
大人としてのアイデン
ティティ形成、加齢・
死への対応
etc.

形で見えにくいこと

* ライフステージごとに取り組むべき課題

①乳幼児期＝ 家庭が安全基地になる

- 愛着形成
- 自分の身体の使い方を覚える
- 五感を通して外界の情報を取り入れ、情報発信をする
- さまざまな生活体験を積み、生活スキルを獲得する





②学齡期

＝豊かな生活体験による生活スキルの獲得

- 能力に応じた学習力の涵養
- 地域での人間関係を広げる
- 性を含めた自分の身体の状態を把握し訴えるスキルの習得
- 放課後や余暇の過ごし方を学ぶ
- 自身の心身機能の状態の理解（障害認識の初歩）
- サービス利用・選択の練習





③青年期以降＝大人としての生活の構築

- 大人としてのアイデンティティ構築
- 親離れするための生活スキルの習得と、サービス利用(練習も含めて)
- 労働・余暇・政治を通しての社会参加スキルの習得...例:社会性を含めた就労に必要なスキルの習得
- 障害の自己認識を深める
- 生涯学習の機会を得る
- 加齢・身近な人を含めた死への対応





3. 「暮らしの幸せ」の阻害要因

「障害がある」ことによって...

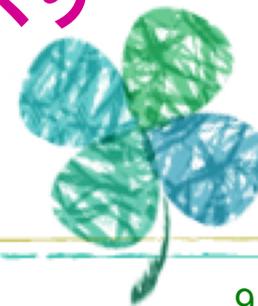
(1) 本人にとって安心・安全な環境がおびやかされやすい

① 親自身混乱する時期がある

② 家族の中に葛藤が生じやすい

③ 自分のおかれている環境を理解しにくい＝不安

⇒ その人に理解しやすい環境・条件づくり
＝ 「障害」に応じた工夫 が必要





(2) 本人の生活体験の幅が狭くなりやすい

① 本人自身の能力

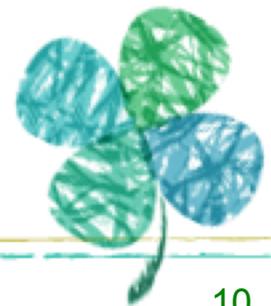
⇒ 本人の発達段階と年齢相応の体験の
「ちょうど良いところ」はどこか？

⇒ 本人の能力を物や人でどう補えるか？

② 親の理解

⇒ あきらめすぎず、期待しすぎずの
「ちょうど良いところ」はどこか？

* これらを探すための支援が必要
＝「障害」とは何か





(3) 本人が「否定的な自己像」を描きやすい

① 本人の能力

- ・ 周囲から要求されることに応えられない体験
- ・ 人と比較して自信をなくす

⇒「あなたはあなたであっていい」「あなたには価値がある」ということをどうやって伝えるか？

② 親や支援者の理解

- ・ 周囲がすべて決める(本人: 無力感)
- ・ 常に子どもとして扱う(本人: 大人になれない)

⇒周囲の人が、自身の「障害者像」を点検して見る必要がある



4. 検討課題のまとめ

(1) 本人の能力を、補う方法

無理、と思わずに「可能性」を見出すには？

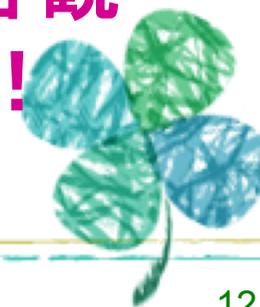
(2) 日常生活・社会生活への参加の方法

この「子」が「大人」になるために必要なことは？

(3) 本人が「価値ある自分」を感じる方法

家族にとっての幸せ、本人にとっての幸せとは？

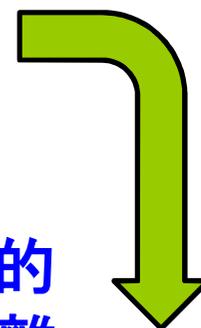
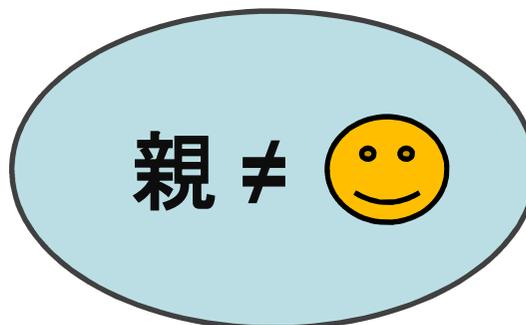
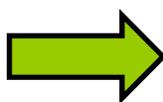
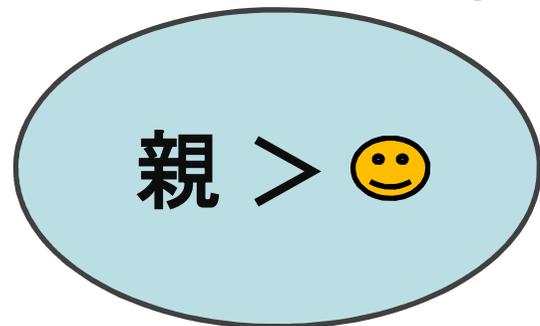
⇒ 家族・支援者の「人間観・援助観」「障害観・
障害者観」の点検を...もちろん本人のも！



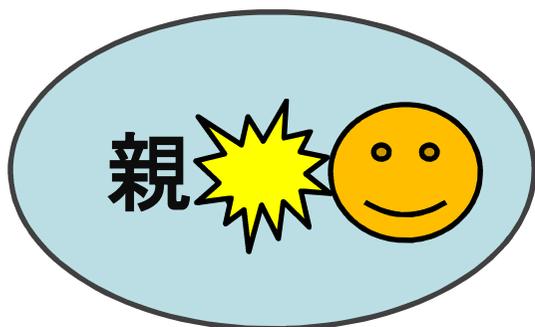
(4) 支援者の立ち位置の確認

子どもと親: 一体化

子どもの自我、少しずつ距離



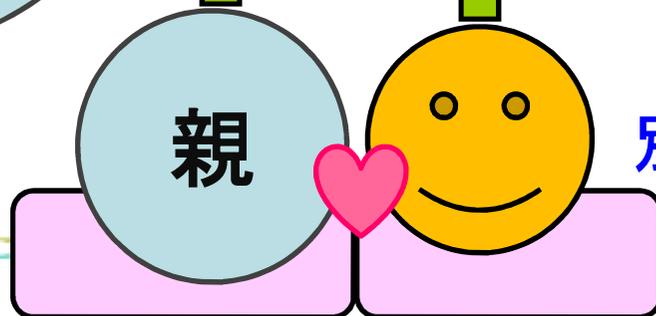
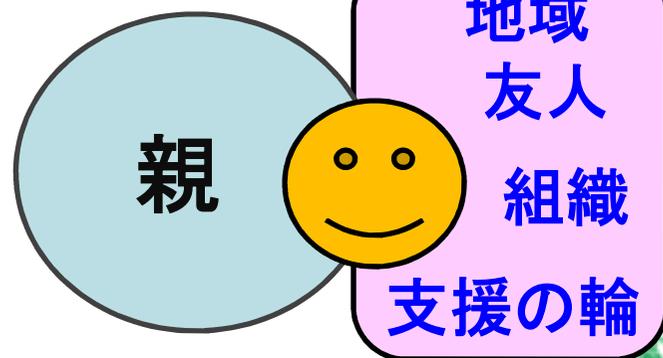
ずっと
このまま ↓



その人らしい
暮らし・人生



身体的・精神的
な分離



別の人生・人格